



リアンつくば Lien Tsukuba

新入職員紹介

213名の新しい仲間を紹介します。
どうぞ、よろしくお願いいたします。

医師 82名



看護部 102名



2015年春、213名の新しいスタッフが加わりました。年齢、性別、出身地はさまざまですが、このつくばで第一歩を踏み出していきます。患者さんと地域のために一生懸命頑張りますので、どうぞよろしくお願いいたします。



放射線部 4名



リハビリテーション部 7名



薬剤部 12名



検査部 2名



つくばヒト組織診断センター 1名



医療機器管理センター 3名

新・看護部長からのご挨拶

この4月から、副病院長・看護部長となりました。長年にわたって筑波大学で看護学の教育と研究に携わった経験を活かし、確かな看護技術と豊かな人間力をも備えた看護師の育成と、看護のさらなる発展に力を注いでまいります。患者さんやご家族の声に耳を傾け、地域に根差した看護を実践していく所存です。どうぞよろしくお願いいたします。

副病院長(看護・患者サービス担当)／看護部長 小泉 仁子

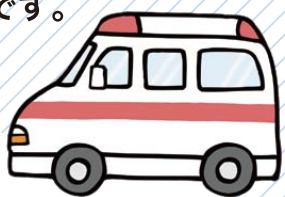
こいずみ ひとみ



12 13
19 20
26 27

茨城の医療を考えよう 第4回 救急・災害に対する取り組み

必要とされる医療を迅速・安全にお届けするためには、地域全体で力を合わせる必要があります。今回は、筑波大学附属病院の救急・災害に対する取り組みを紹介します。



あらゆる災害に備えた体制を

救急・集中治療部は、安全で質の高い救急・集中治療の提供を第一の目標とし、スタッフ一同、医療の質的向上、医療事故防止に努めています。大学附属病院救急・集中治療部の使命として、豊富な人材、データの蓄積を基盤とした全人的な医療を目指すとともに、医師、看護師、医学生、看護学生、救急救命士、その他の医療サービシスに携わる優れた人材の育成や、様々な研究活動を行っています。また、大学病院を核とした地域医療体制の充実のために、広範な地域を対象として病院前・病院間連携にも積極的に取り組んでいます。

救急部門では、各種内科的疾患、外傷、

中毒、熱傷などの診療を精力的に行っています。年々、救急車受入数が増加し2014年には2,500台を超えました。けやき棟ERには、高気圧酸素治療装置、血管造影室、手術室などの高度な施設を備え、様々な病態に迅速な対応が可能です。現在、脳血管疾患（stroke）に対しては、血栓溶解療法等が迅速に行えるように対応システムを構築しています。

また、当院は災害医療を極めて重視しており、東日本大震災を契機に活動してきた「つくば災害緊急医療調整室（T-DREAM）」を発展的に継承する新組織「筑波大学附属病院総合災害・救急マネジメント室」

が本年4月に発足しました。2013年に災害拠点病院の指定を受けるとともに2015年4月からは茨城県2次被曝医療機関の指定を受け、近年では、例年、厚生労働省NBC（核・放射線、生物、化学）災害・テロ対策研修会が本学で開催されています。現在、DMAT（災害医療派遣チーム）が3チーム編成されており、東日本大震災、つくば市竜巻発生時にはいち早く出動しました。また、各種訓練にも積極的に参加しています。

（副病院長／診療、救急・災害医療担当：水谷太郎）

救急外来で安心・安全な医療を提供するために

つくば市は利便性の向上とともに人口も増加しており、地域の救急体制の充実がますます望まれるようになっていきます。筑波大学附属病院の救急外来はここ数年で徐々に整備され、けやき棟の開棟にあわせて大幅な拡大が行われました。ここ数年で最も変化した部署のひとつであり、ちょうど、つくば市の人口増加に呼応して充実がはかれてきたかたちです。救急車の受け入れ台数も、多い月では前年に比べて100件近くも増加しました。

救急外来の看護師が重視しているのは地域への貢献であり、救急車の台数だけ見れば、少しだけお役に立っているのかもしれませんが、救急車の台数が看護の質を示すものではないので、今後は救急外来の質向上にむけた活動を行う予定です。救急外来を受診する方への対応を少しでもはやくし、安心感につながる対応ができればと考えています。具体的には緊急度の判定等を行っていきますが、看護師だけでなく、医師、事務とも連携した、入り口から

のチーム医療を推進できればと考えています。以前に比べて、夜間や休日には混雑する日も増えています。安全な診療につながるという点で、ますます来院の皆さんにご協力をいただく機会も増えてくると予想されます。

気軽に声をかけていただき、お話を伺いながら、改善に努めていければと考えております。今後とも救急外来をよろしくお願いいたします。

（看護部看護師長 救急外来：小笹雄司）



救急車で搬送された患者さん



救急隊から状況を聞く



患者さん対応中の看護師



再開発プロジェクト 20 「接遇研修」

TnIP 筑波大学附属病院再開発に係る施設整備等事業
つくばネクストパートナーズ

医療安全に繋がる医療現場の接遇

2/3(火)、9(月)、10(火)に接遇研修を開催し、看護師、PFI従事者、事務職員等合わせて403名が参加しました。「医療安全に繋がる医療現場の接遇」という内容のもと、体験に基づいた、気付きを引き出すユニークな進行之でした。参加者からも、「自分の接遇を振り返る貴重な機会だった」、「一人ひとりの気付き、学び、努力が大切だと感じた」、「相手によって情報の受け取り方が違うため、伝え方が重

要だということを痛感した」、「ぜひ明日から実践したい」などの声が寄せられ、大変有意義な研修となりました。

今後はさらに多くの職員が参加できるよう、時間設定を工夫したり、現場に密着した研修項目を設定するなどの改善を試みながら、より患者さんの視点を大切にしたいコミュニケーションの実現に努めてまいります。



3日間で403名が参加。約90%が「役立つ」と回答しました。



カフェリアンのレシピ集 …………… 私たちの体は、食べたもので作られている!!

春キャベツたっぷりハンバーグ



【材料（1人分）】キャベツ200g、合挽肉250g、タマネギ50g（小半個）、塩0.6g（2つまみ程度）、こしょう少々、油4g（小さじ1）、ウスターソース20g（大さじ1杯強）
【作り方】①キャベツは細い千切りにする。②タマネギはみじん切りにする。薄く油を引いたフライパンで炒め、あら熱をとる。③①、②と、合挽肉に塩、こしょうを混ぜて、よくこねる。④8個くらいに丸めて、フライパンで焼く。できあがる前にウスターソースをかけて仕上げる。

※エネルギー（1人分）164kcal、タンパク質18.3g、脂質10.5g、塩分0.4g

新年度を迎え、不安げな表情を浮かべながらもキラキラした瞳の新人さんを見かけます。彼らを横目に、職業柄か「一人暮らしで食事に困ってないかな?」と思ったり。そこで、今回のタイトルをつけました。私たちが口にする食物は、体内で分解・吸収され分子レベルの栄養素となり、血液にのって全身をめぐる。そして、旬の野菜は私たちを守ってくれるようにできています。ふわふわと柔らかい旬の「春キャベツ」は豊富な栄養素が含まれています。ビタミンCが多い外側の葉は生でサラダに。アミノ酸も多く含まれている内側はスープなどに。今回は、小ぶりキャベツを半分丸ごと使用したハンバーグの紹介です。歯ごたえもあり、半分为野菜なので、体にも優しいです。

（管理栄養士：岩部博子）



病院サポーター

さまざまなかたちで患者さんやご家族をサポートするスタッフをご紹介します。

「院内搬送業務」

私たち搬送業務担当は皆さんに「メッセージャー」と呼ばれており、必要なものを必要な場所へ適切にお届けするために、院内の配送業務を担っています。ガーゼや包帯などの医療材料やリネンなどの医療資材、消耗品を中心に、検査検体や医療機器から日用品や書類の運搬も行います。一日の件数は臨時便だけで約300件、定期便もあわせると数百件になります。筑

波大学附属病院はとても規模が大きいので、歩行距離が15Km近くになることもあります。お届けしたときに「早いですね」といわれると疲れを忘れてしまいます。検査検体には一分一秒を争うものもあるので、自分たちも医療チームの一員として患者さんの負担を軽減しようと気合いを入れてがんばっています。



黄色いベストを見かけたら私たちだと思ってください。

つくばニュース

イベント報告

ふれあい実習

4月14日(火)から、筑波大学医学群医学類1年生の病院実習「ふれあい実習」が始まりました。今年度も全国から130名の医学生が参加しています。

この実習は早期体験実習に位置づけられ、入学間もないフレッシュな医学生が医学を学習する前に病棟に入り、患者さんと接する実習で、文字通り患者さんとふれあう実習です。入院されている患者さんとの貴重な関わりを通して、医

学生としての自覚を育み、6年後の医師国家試験合格を目指して日々学習していきます。

130名の医学生にエールをお願いいたします。

(総合臨床教育センター
看護師長：石塚孝子)



初めての病院実習に、キラキラと目を輝かせて臨みました。

安全な医療のためのワンポイントをご紹介します。

病院生活のしおり

「がんとつきあう心の保ち方」



がんと言われてショックを受けた、気持ちが落ち込んだ… そんな心の変化を経験していませんか？ここでは、がんとつきあっていく時の心の保ち方についてご紹介します。

がんの告知を受けると、衝撃や悲しみ、抑うつなど様々な感情を持つのが当たり前です。描いていた未来図、ご家族や仕事上の関係性を失う感覚にとらわれるのですから。大切なことはだれかと分かち合うこと。言っても仕方がないと思わずに、自分の気持ちをだれかにはき出しましょう。言われた方は無理に励まさなくて良いのです。ただじっくりと話を聴いてください。感情をはき出し、誰かにわかってもらうことで、がんとつきあっていくためのエネルギーが満たされるのです。

私たち看護師は、がん患者さんの心の変化に寄り添う存在でありたいと願っています。担当看護師に、どんなお気持ちでも話していただけたらと思います。

(がん性疼痛看護認定看護師／看護師長：池見亜也子)

インフォメーション

看護学生対象

サマーインターンシップを開催します！

職場の雰囲気や環境を知り、先輩ナースの話を直接聞くことができる絶好のチャンスです。将来の進路や、自分が目指す看護像を考えるためにも、ぜひこの機会につくばナースを体験しにきてください！

お待ちしております！



日 時	7月28日(火)・30日(木) 8月4日(火)・6日(木)・19日(水)・27日(木)※ 9:00～16:00
プログラム	・病棟での看護体験 ・先輩ナースとの交流 ・病棟／看護師宿舎の見学 など
対 象	平成28年3月に卒業見込みの看護学生の方 ※8月27日は平成29年3月卒業見込みの方対象
申 込 方 法	申込書をE-mailまたは郵便で送付してください (申込書は看護部HPからダウンロード可)
そ の 他	・旅費の一部を負担します ・遠方の方はゲストルームに宿泊が可能です ・昼食は病院食の試食体験を予定しています ・実習用のユニフォームとシューズを持参してください
お 問 合 せ 申 込 先	〒305-8576 つくば市天久保2-1-1 筑波大学附属病院 総務課看護職員募集担当 TEL 029-853-3512/3514 E-mail byouin-jinji@un.tsukuba.ac.jp

リアン 編集後記

いよいよ新年度がスタートしました。平成27年度の看護部は管理者が一新し、新しい看護部の歴史がスタートいたしました。今年度も皆様に役立つ情報をお届けしてまいります。よろしくお願い申し上げます。(リアン広報担当：田村恵美、植田雅弘)



写真：松見公園にて